オンプレミス型セキュリティ管理ツール
ESET PROTECT V8
機能紹介資料

第8版

2022年10月17日

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

もくじ

1．はじめに(本資料について)

2．ESET PROTECT(EP)とは

3．ESET PROTECTの構成

4．Webコンソールのご紹介

・ログイン画面　・Webコンソールの画面構成

・Webコンソールの画面構成(メインセクション)

5．ログ監視機能のご紹介

・ダッシュボード　・コンピューター　・検出

6．クライアント管理機能のご紹介

・レポート　・グループ　・ポリシー

・タスク　・インストーラー　・通知

7．サーバー運用管理機能のご紹介

・ユーザー管理

・監視・監査

8．モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

9．ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

©Canon Marketing Japan Inc.

1. はじめに(本資料について)

本資料はオンプレミス型セキュリティ管理ツール(ESET PROTECT V8)の機能を紹介している資料です。本プログラムは、

旧バージョンのオンプレミス型セキュリティ管理ツール(ESET Security Management Center V7)の後継プログラムです。

旧プログラム名	新プログラム名	種別
ESET Security Management Center (Windows版)	ESET PROTECT (Windows版)	オンプレミス型セキュリティ管理ツール
ESET Security Management Center (Linux版)	ESET PROTECT (Linux版)	オンプレミス型セキュリティ管理ツール

・本資料で使用している画面イメージは使用するOSにより異なる場合があります。
また、今後画面イメージや文言が変更される可能性がございます。

・ESET PROTECTソリューションではクライアントOSおよびサーバーOSの端末に導入するプログラムとしてWindows、Mac、Linux、Android OS向けのプログラムをご使用いただけます。
各プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。

・Windows、Windows Server、Microsoft Edge および Internet Explorerは、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における商標登録または商標です。macOS、OS X および iPhoneは、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

・ESET File Security for Microsoft Windows ServerはV8よりESET Server Security for Microsoft Windows Serverに名称が変更になりました。

・ESET File Security for LinuxはV8よりESET Server Security for Linuxに名称が変更になりました。

©Canon Marketing Japan Inc.

2. ESET PROTECT(EP)とは

ESET PROTECT(EP)とは、ESET Endpoint Securityなどのウイルス・スパイウェア対策プログラムをネットワーク経由で統合管理するプログラムです。Windows、Mac OS X、Linux、Android向けプログラムを管理できます。また、iOSデバイスを管理することも可能です。(※1)

ESET PROTECT V8 で管理可能なプログラム(2022年10月時点)

管理可能なプログラム	種別	バージョン
ESET Endpoint Security	Windows クライアントOS向け 総合セキュリティプログラム	9.X / 8.X / 7.3
ESET Endpoint アンチウイルス	Windows クライアントOS向け ウイルス・スパイウェア対策プログラム	9.X / 8.X / 7.3
ESET Server Security for Microsoft Windows Server	Windowsサーバー OS向け ウイルス・スパイウェア対策プログラム	9.X / 8.0 / 7.3
ESET Endpoint Security for OS X	Mac クライアントOS向け 総合セキュリティプログラム	6.10 以降
ESET Endpoint アンチウイルス for OS X	Mac クライアントOS向け ウイルス･スパイウェア対策プログラム	6.10 以降
ESET Endpoint アンチウイルス for Linux	Linux クライアントOS向け ウイルス・スパイウェア対策プログラム	9.0 / 8.X ※2
ESET Server Security for Linux	Linuxサーバー OS向け ウイルス・スパイウェア対策プログラム	9.0 / 8.1 / 7.2 ※2
ESET Endpoint Security for Android	Android OS向け 総合セキュリティプログラム	2.11 / 3.X

※1 EPでは、iOSデバイスの管理が可能ですが、iOS向けのウイルス対策機能はございません。
セキュリティ管理ツールのバージョンによって管理できるクライアント用プログラムに差異があります。
詳細は右記サポートページをご参照ください。https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/143?site_domain=business
※2 EEAL、ESSLはEP V8.1以降で管理可能です。

©Canon Marketing Japan Inc.

2. ESET PROTECT(EP)とは

EPの主な機能

EPを使用することにより、 ESET Endpoint Securityなどウイルス・スパイウェア対策プログラムをネットワーク経由で統合管理することができます。EPは主に以下の３つの機能で構成されています。

ログ監視機能
- ダッシュボード
- コンピューター
- 検出

クライアント管理機能
- レポート
- グループ
- ポリシー
- タスク
- インストーラー
- 通知

サーバー運用管理機能
- ユーザー管理
- 監視・監査

5.ログ監視機能のご紹介を参照

6.クライアント管理機能のご紹介を参照

7.サーバー運用管理機能のご紹介を参照

©Canon Marketing Japan Inc.

3. ESET PROTECTの構成

ESET PROTECTは以下のコンポーネントから構成されています。

ESET PROTECT(EP)

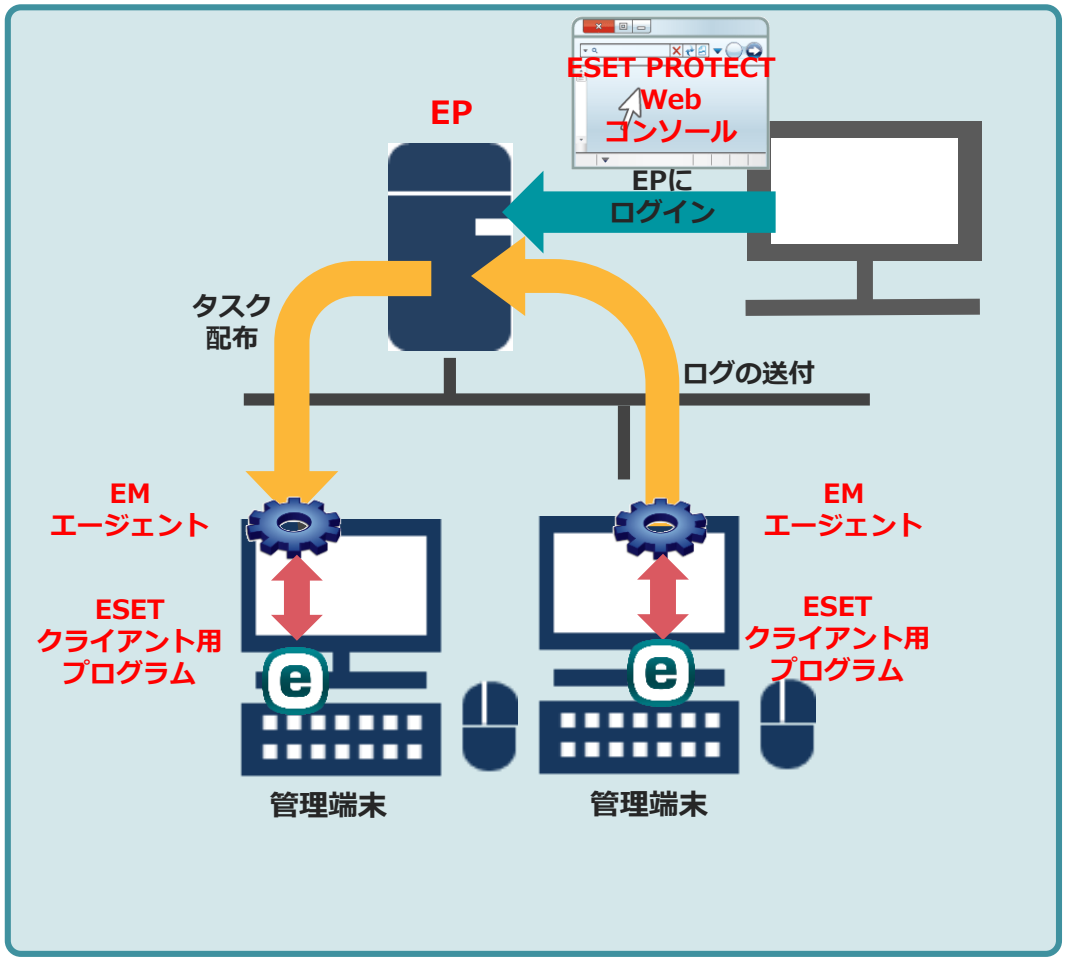
EPはクライアントプログラムの情報収集やタスク配布などを行います。
クライアントとの通信はエージェントを経由して行います。

ESET PROTECT Webコンソール

WebコンソールはWebベースのインターフェースであり、ブラウザーを使用してEPへアクセスします。ブラウザー経由でクライアント情報の閲覧やEPの設定変更などを行うことができます。

ESET Managementエージェント (EM エージェント)

エージェントは、クライアントから情報を収集し一定の間隔毎でEPへデータを送信します。また、EPからのタスク配布などはエージェントへ送信されたのち、エージェントがクライアントへ送信します。
※EMエージェントV8.1以降、自動アップグレードに対応しています。



©Canon Marketing Japan Inc.

3. ESET PROTECTの構成

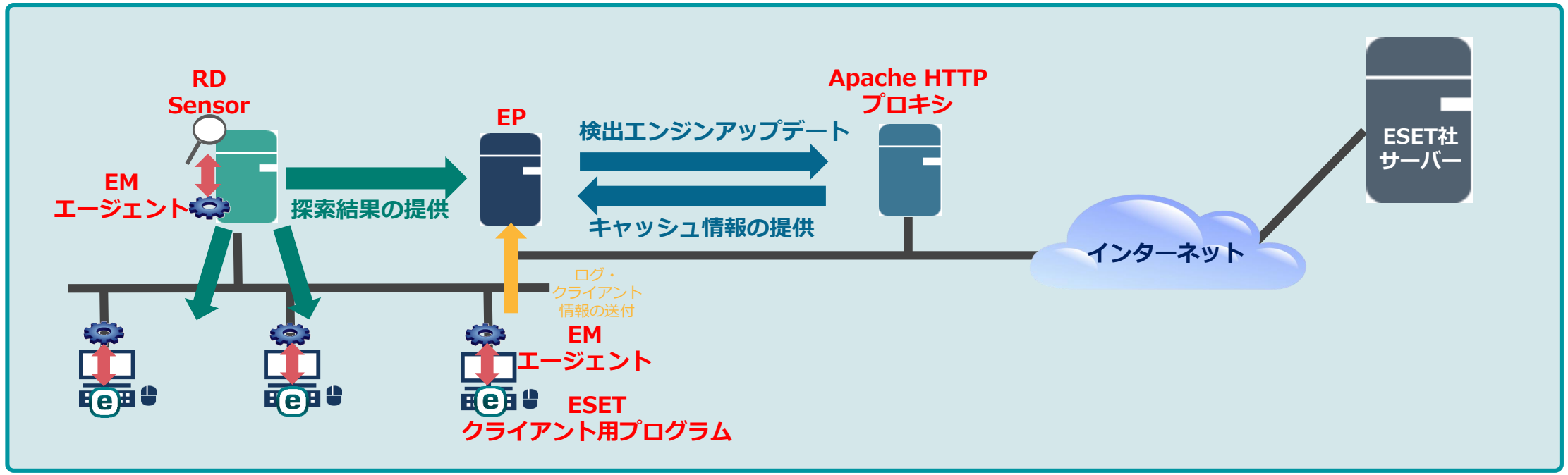
以下のコンポーネントは任意で構成します。

Rogue Detection Sensor(RD Sensor)

RD Sensorはネットワーク上のコンピューターを探索し、EPに追加するツールです。追加したコンピューターに対してEPよりEM エージェントの展開ができます。なお本機能はEPに含めることができます。

Apache HTTPプロキシ

Apache HTTPプロキシはクライアントに検出エンジンなどのアップデート配布に利用するプロキシです。Apache HTTPプロキシを利用すると検出エンジンやアクティベーションなど、ESETの通信をキャッシュすることで、ネットワーク通信トラフィックを軽減することができます。



※本機能は、「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」および「 ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

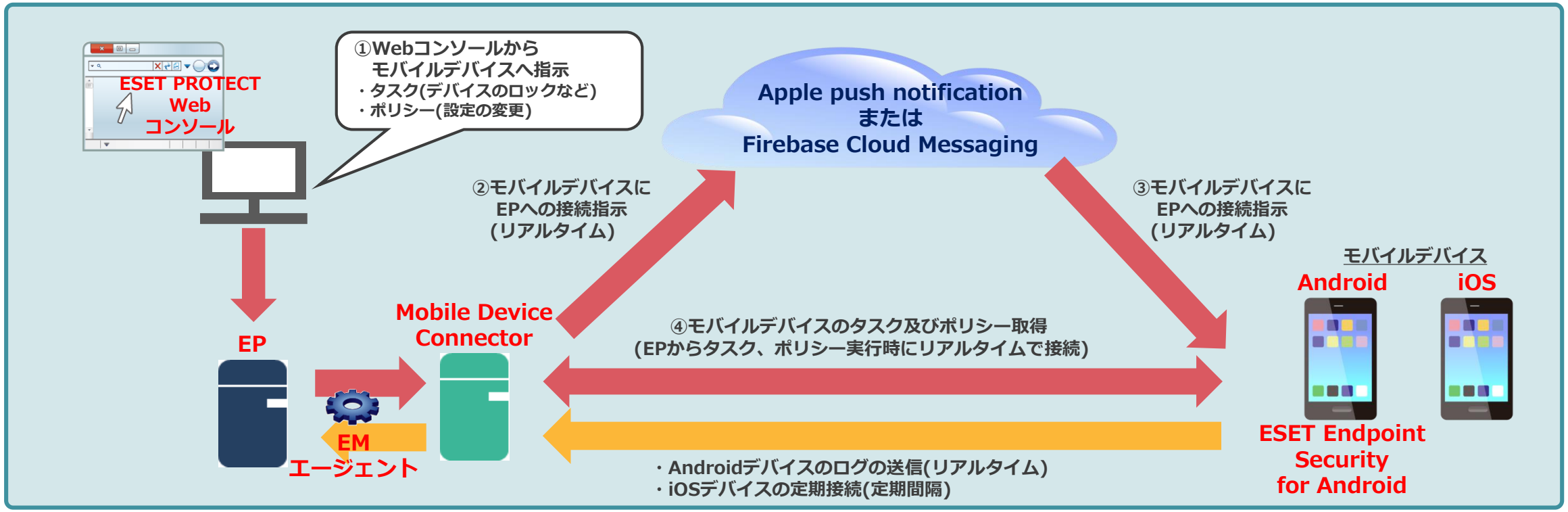
©Canon Marketing Japan Inc.

3. ESET PROTECTの構成

以下のコンポーネントは任意で構成します。

Mobile Device Connector

EPでAndroid端末やiOSのモバイルデバイスを管理するために必要なコンポーネントとなります。
モバイルデバイスの登録および、モバイルデバイスとの通信を行う際に使用します。なお本機能はEPに含めることができます。



※本機能は「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. ESET PROTECTの構成
(動作要件：サポートOS)

インストール可能なサポートOSは以下の通りです。Windows版またはLinux版の以下OSでご利用いただくことが可能です。

EPのサポートOS

プログラム	オペレーティングシステム名
EP V8 (Windows版)	Windows Server 2012 Standard (64bit)
	Windows Server 2012 R2 Standard (64bit)
	Windows Server 2016 Standard (64bit) / Datacenter (64bit)
	Windows Server 2019 Standard (64bit) / Datacenter (64bit)
EP V8 (Linux版)	Red Hat Enterprise Linux 7 (64bit)
	CentOS 7 (64bit)
	Suse Linux Enterprise Server 11 (64bit)
	Suse Linux Enterprise Server 12 (64bit)
	Suse Linux Enterprise Server 15 (64bit)

©Canon Marketing Japan Inc.

3. ESET PROTECTの構成
(動作要件：利用可能なデータベース)

利用可能なデータベースは以下の通りです。Microsoft SQL Serverは、2012、2014、2016、2017、2019の利用が可能です。エディションの指定はございません。以下には主要なエディションを記載しています。

利用可能なデータベース

プログラム	利用可能なデータベース	データベースの最大サイズ
EP V8 (Windows版)	Microsoft SQL Server 2012 Standard Edition	制限なし
	Microsoft SQL Server 2012 Express Edition	10GBまで
	Microsoft SQL Server 2014 Standard Edition	制限なし
	Microsoft SQL Server 2014 Express Edition(既定)※	10GBまで
	Microsoft SQL Server 2016 Standard Edition	制限なし
	Microsoft SQL Server 2016 Express Edition	10GBまで
	Microsoft SQL Server 2017 Standard Edition	制限なし
	Microsoft SQL Server 2017 Express Edition	10GBまで
	Microsoft SQL Server 2019 Standard Edition	制限なし
	Microsoft SQL Server 2019 Express Edition(既定)※	10GBまで
EP V8 (Linux版)	MySQL 5.6、5.7、8.0	制限なし

※ご利用の環境に合わせて、既定でインストールされるデータベースが異なります。

©Canon Marketing Japan Inc.

4. Webコンソールのご紹介

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

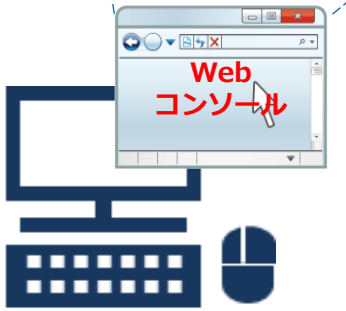
4. ログイン画面

EPのWebコンソールへは、Webブラウザを使用してログインします。Webベースのインターフェイスのため、EPに接続可能なデバイスのブラウザからいつでもログインできます。

ESET PROTECT Webコンソール
サポート対象ブラウザー

サポート対象ブラウザー
Microsoft Edge
Mozilla Firefox
Google Chrome
Safari
Opera

※最新バージョンでご利用をお勧めします。



ESET PROTECT Webコンソール
ログイン画面

【ログイン画面】
ユーザー名・パスワードを入力して、ログインします。

【マルチ言語対応】
EPの表示言語を選択することができます。
設定やログの中身を選択した言語で表示させることができます。

※ただし日本語で入力した設定やコメントは、英語などを選択してログインしても日本語のまま表示されます。

©Canon Marketing Japan Inc.

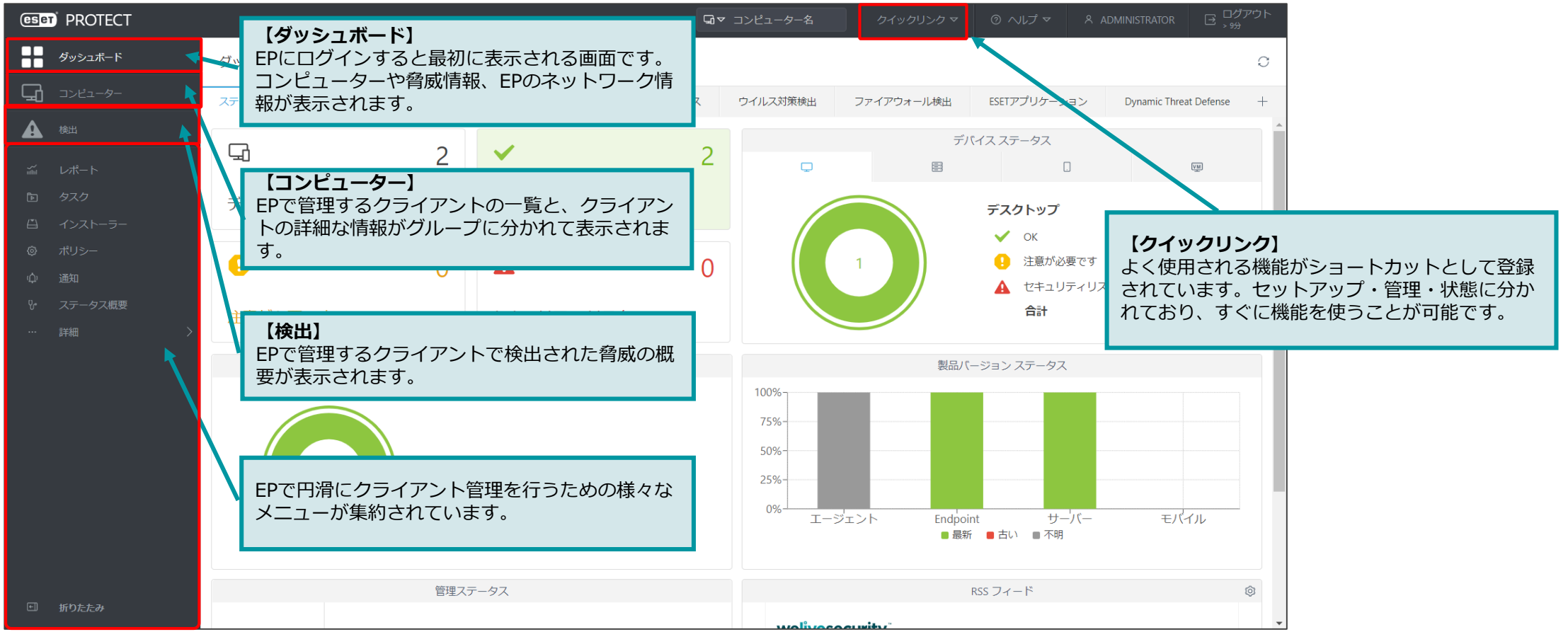
4. Webコンソールの画面構成

Webコンソールにログインすると以下の画面が表示されます。Webコンソールは３つのセクションより構成されており、画面左のメインセクションより、各種メニューを選択することで、レポートの閲覧や管理を行うための設定ができます。

©Canon Marketing Japan Inc.

4. Webコンソールの画面構成(メインセクション)

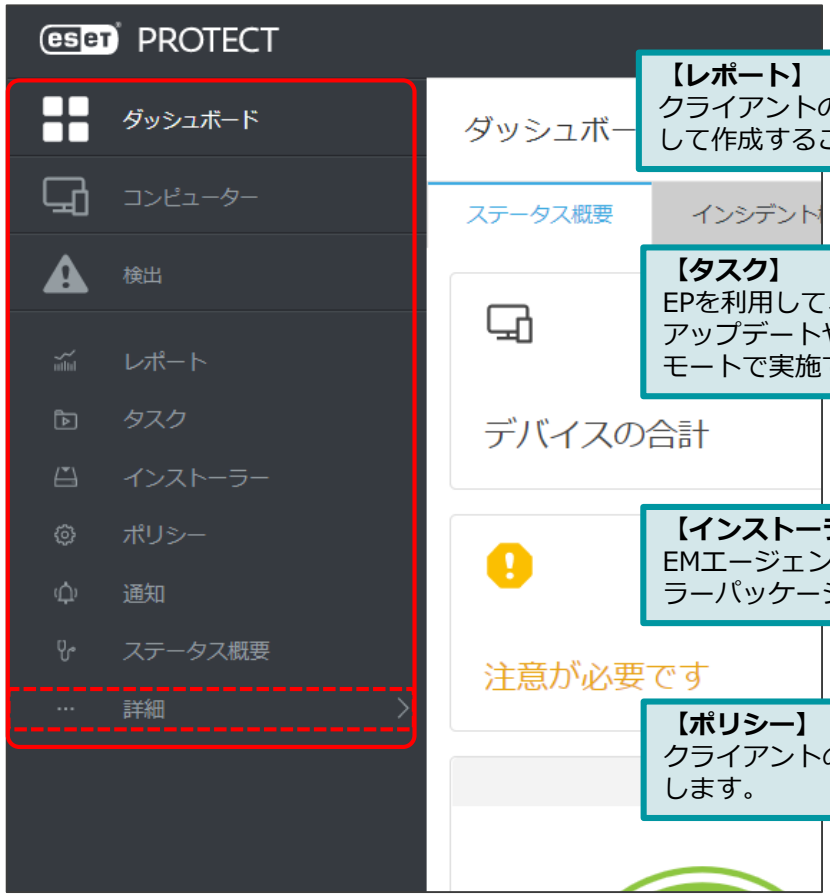
Webコンソールのメインセクションでは EPの各メニューを選択することができます。各メニューの詳細については、各機能のご紹介をご確認ください。



©Canon Marketing Japan Inc.

4. Webコンソールの画面構成(メインセクション)

メインセクションの後半にはEPの各メニューを選択することができます。
主にクライアント管理機能やログ監視機能が集約されてます。詳細は各機能のご紹介をご確認ください。



【レポート】
クライアントの状態や検出情報をレポートとして作成することができます。

【タスク】
EPを利用して、クライアントのモジュールのアップデートやオンデマンド検査などをリモートで実施できます。

【インストーラー】
EMエージェントを展開するためのインストーラーパッケージを作成できます。

【ポリシー】
クライアントの設定変更や設定の制御に利用します。

【通知】
ウイルス検出などを管理者に通知することができます。

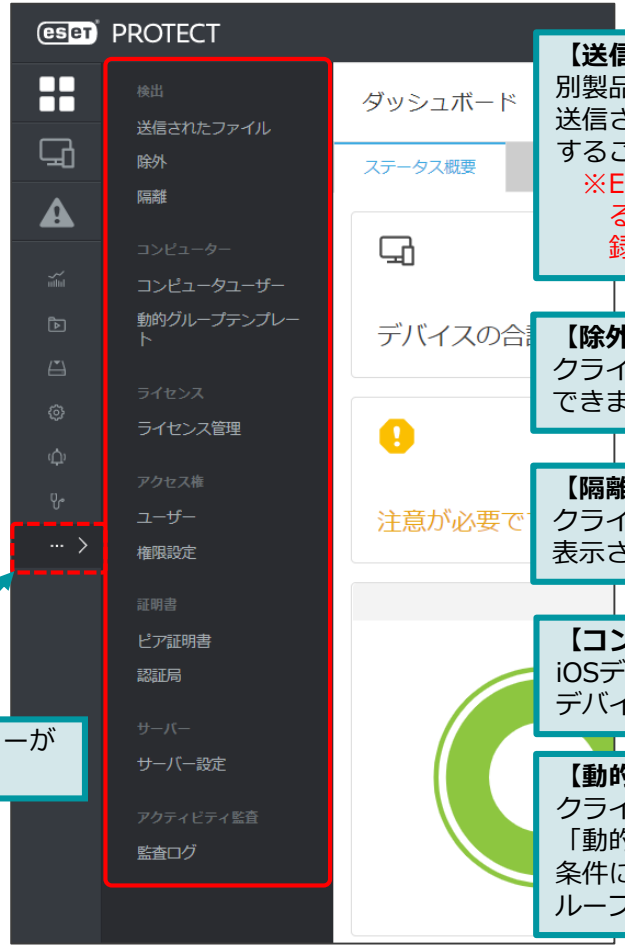
【ステータス概要】
EPに関するステータス情報を表示します。各セクションのステータスを色別で表示します。

【詳細】
EPに関するさらに詳細なメニューが開きます。

©Canon Marketing Japan Inc.

4. Webコンソールの画面構成(メインセクション)

「詳細」を選択するとサブメニューが表示されます。
クライアント管理をおこなうための、さらに詳細な各種設定がございます。



展開すると、サブメニューが表示されます。

【送信されたファイル】
別製品「ESET Dynamic Threat Defense」に送信されたファイルの情報の解析結果を確認することができます。
※ESET Dynamic Threat Defenseを利用するためには、別途ライセンスを購入・登録する必要がございます。

【除外】
クライアントで検出を除外するリストを作成できます。

【隔離】
クライアントで隔離されたファイルの一覧が表示されます。

【コンピュータユーザー】
iOSデバイスの管理に利用します。ユーザーとデバイスの結びつけを行います。

【動的グループテンプレート】
クライアントのグループ化に利用します。「動的グループ」では、グループに設定した条件に従って、リアルタイムに自動的にグループに分類できます。

【ライセンス管理】
EPで管理しているライセンスが登録されます。オフライン環境用のライセンスもこちらで管理できます。

【アクセス権】
EPのWebコンソールログインユーザーの作成と権限の作成ができます。

【証明書】
EPの各コンポーネントがEPと通信するために必要なピア証明書の作成や認証局の作成ができます。

【サーバー】
EPサーバーのアップデート間隔や、EPサーバー本体の設定ができます。

【アクティビティ監査】
ログインユーザーがおこなった操作内容を確認します。

©Canon Marketing Japan Inc.

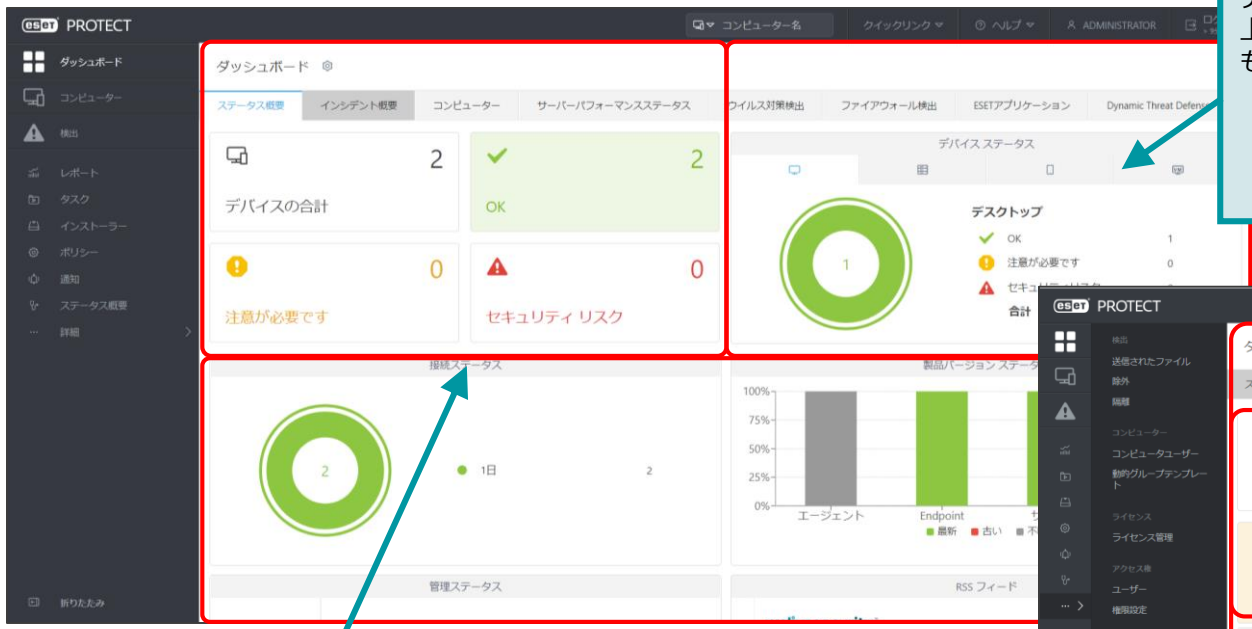
5. ログ監視機能のご紹介

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

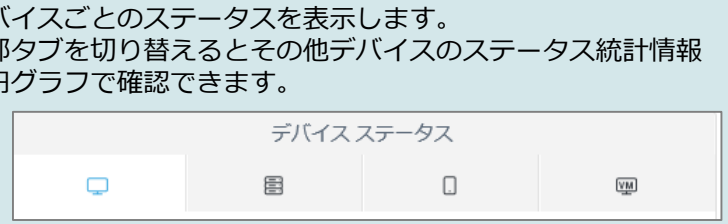
5. ダッシュボード

EPにログインするとはじめに表示されるのがダッシュボードです。「概要」や「インシデント概要」では、簡易的なクライアントの情報や脅威検出情報など管理しているクライアント全台の状態を確認できます。

ダッシュボード - ステータス概要(既定テンプレート)

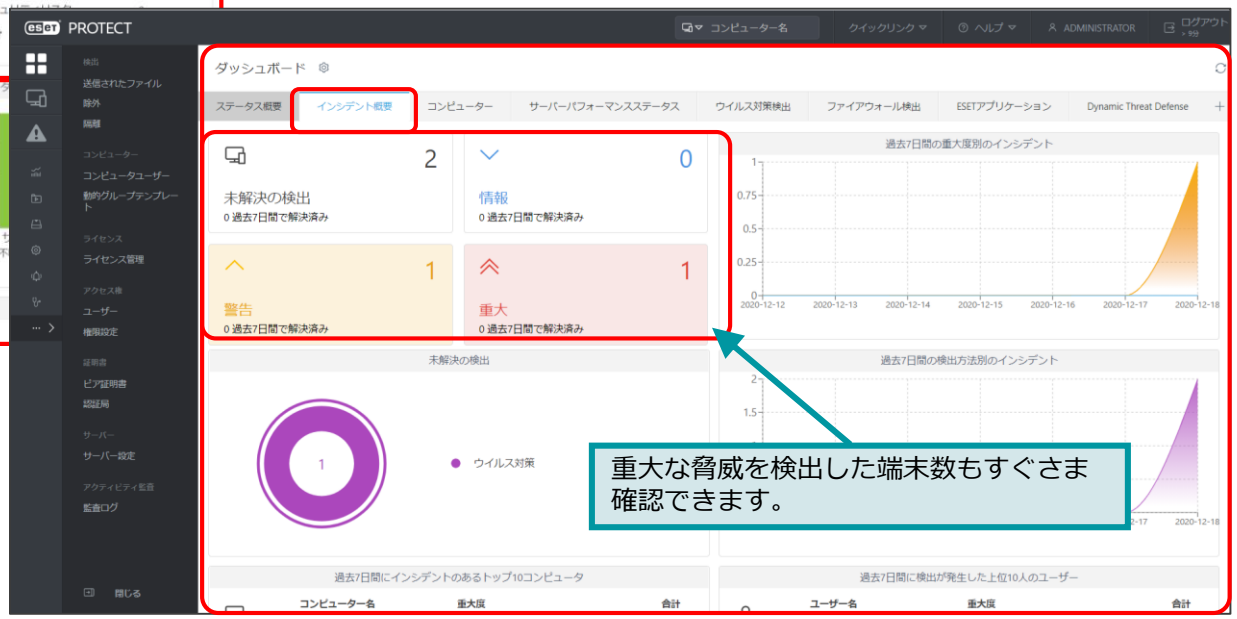


デバイスごとのステータスを表示します。
上部タブを切り替えるとその他デバイスのステータス統計情報も円グラフで確認できます。



正常な端末や注意が必要な端末、問題のある端末を色別でカウントします。

ダッシュボード - インシデント概要(既定テンプレート)



重大な脅威を検出した端末数もすぐさま確認できます。

©Canon Marketing Japan Inc.

5. ダッシュボード

その他のダッシュボード画面はクライアントから収集した情報や、ESET PROTECTのパフォーマンス情報などをレポート化して閲覧できます。表示するレポートは、種類、大きさ、数を自由に変更することができます。

ダッシュボード - コンピューター(既定テンプレート)

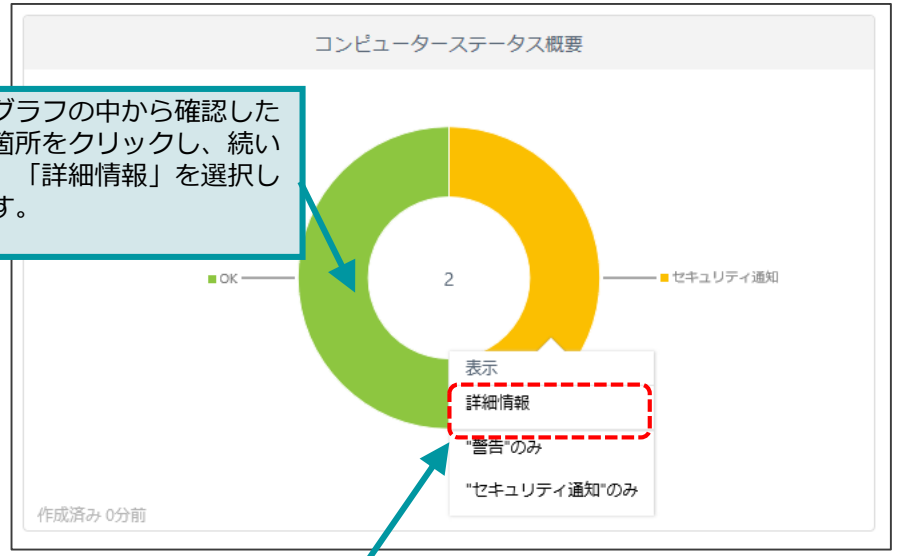
ダッシュボード上部のタブをクリックすることで、表示する画面を切り替えることができます。

ダッシュボードに表示するレポートは、追加することもできます。また、位置や大きさなどをカスタマイズすることができます。

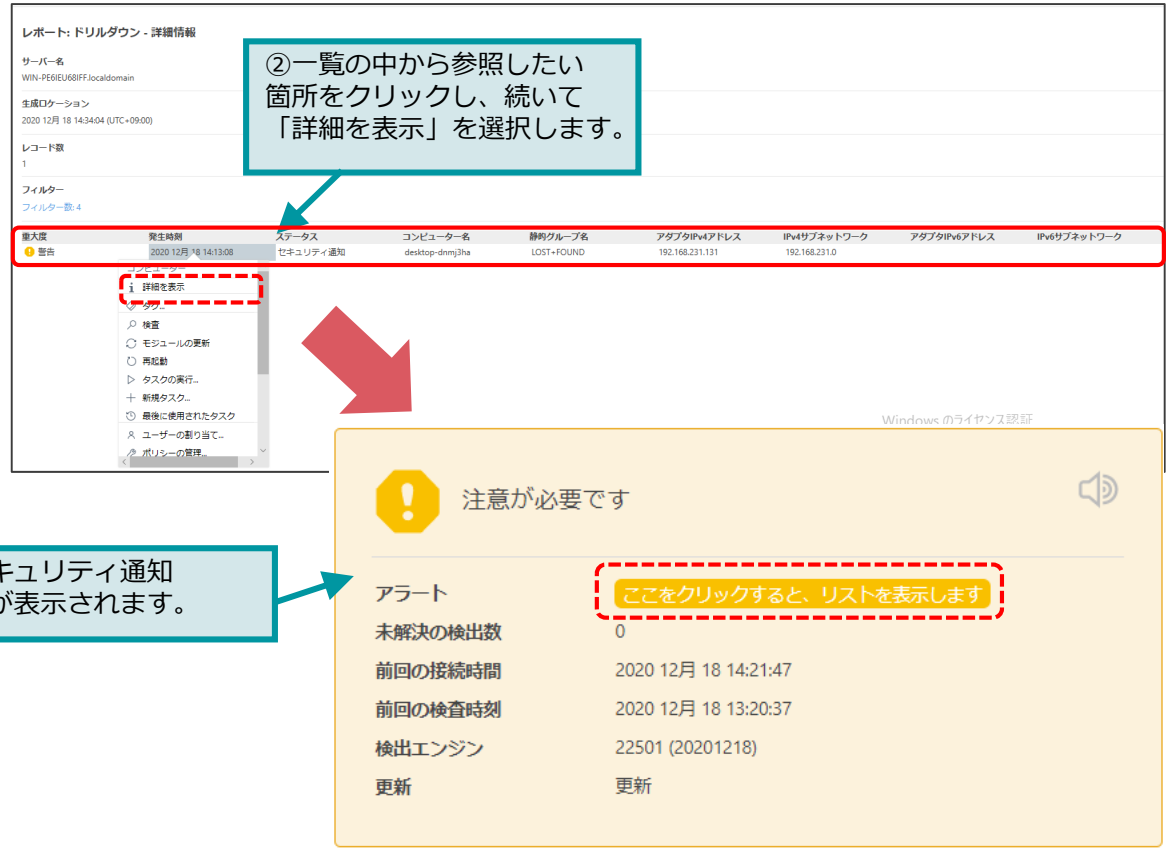
©Canon Marketing Japan Inc.

5. ダッシュボード(詳細情報)

ダッシュボードに表示されているレポートから、詳細な情報を確認することができます。レポート上の確認したい箇所をクリックし「詳細情報」を選択することで、「ドリルダウン」して、さらに詳細な情報を確認することができます。



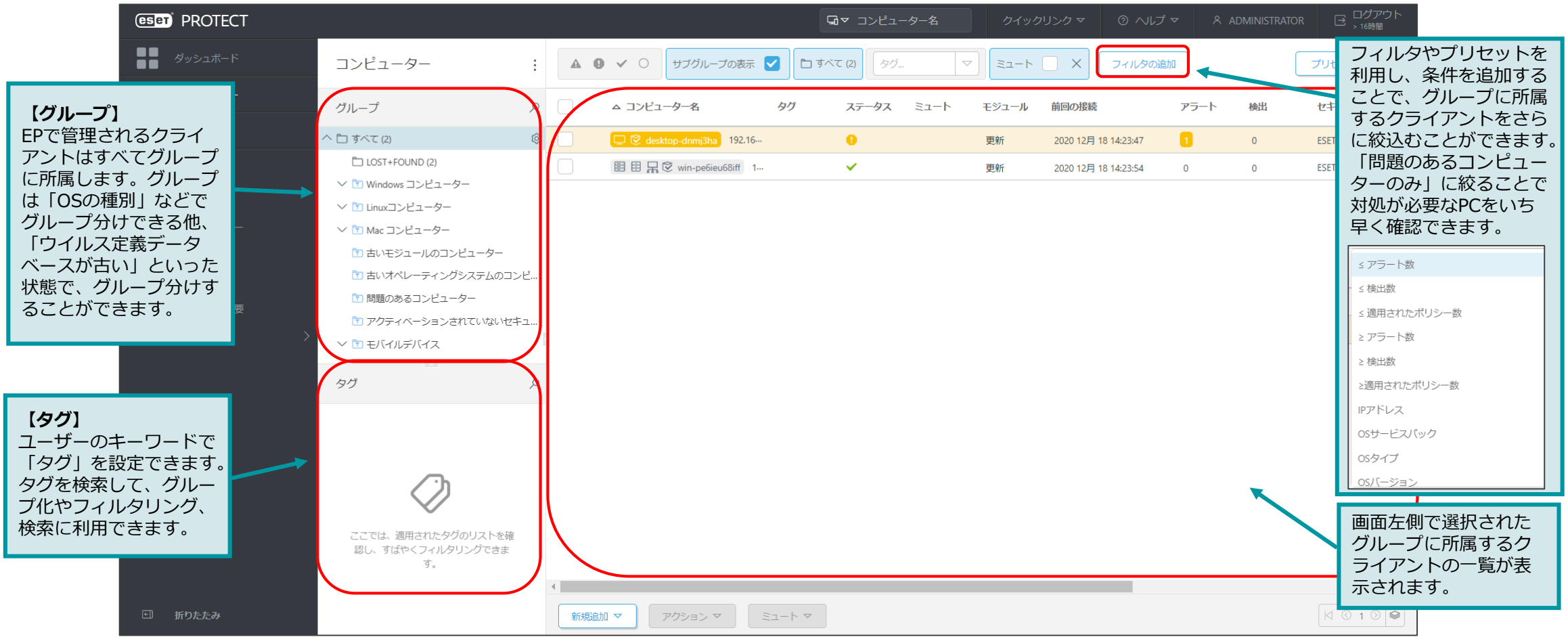
【ダッシュボード機能とドリルダウンについて】
ダッシュボード機能はレポートよりサマリーを表示する以外に詳細にデータを調べることができます。
確認したい項目をクリックし「詳細情報」を選択することでドリルダウンして情報を確認することができます。
※通常、ドリルダウンは複数の階層で表示されます。



©Canon Marketing Japan Inc.

5. コンピューター

EPで管理しているクライアントの情報を確認することができます。ウイルスの検出状況以外にもインストールが行われているOS情報やアプリケーションの名前、バージョンなども確認できます。

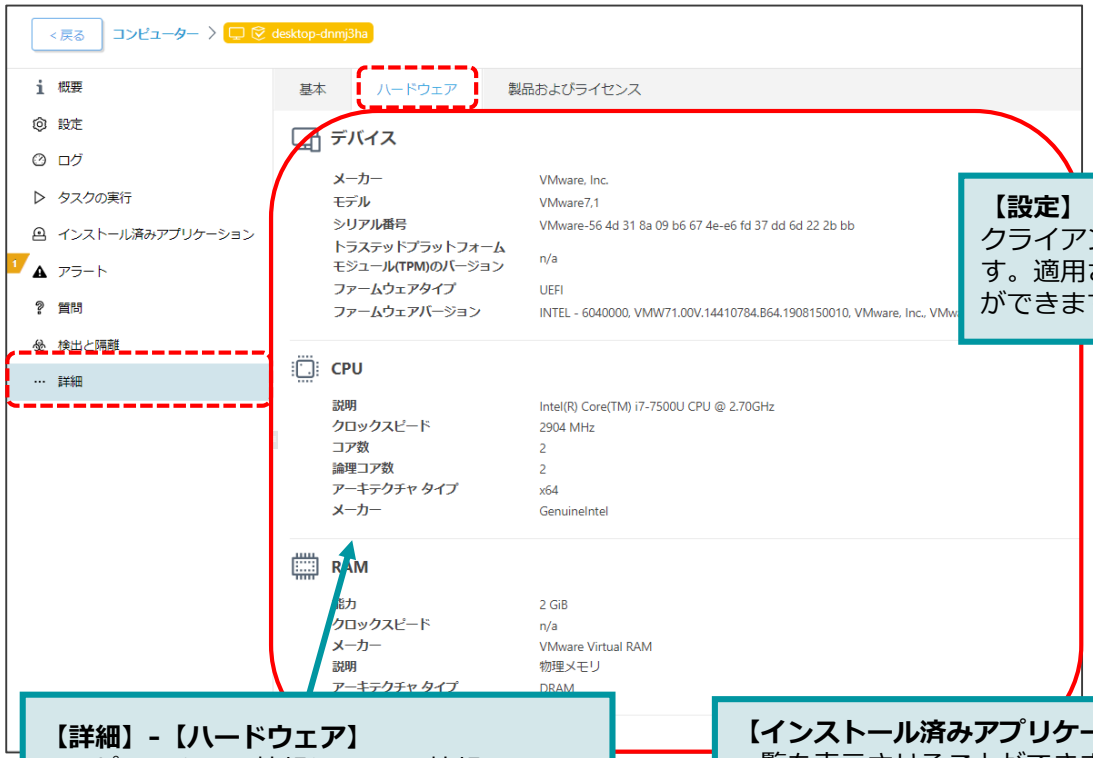


©Canon Marketing Japan Inc.

5. コンピューター(詳細情報)

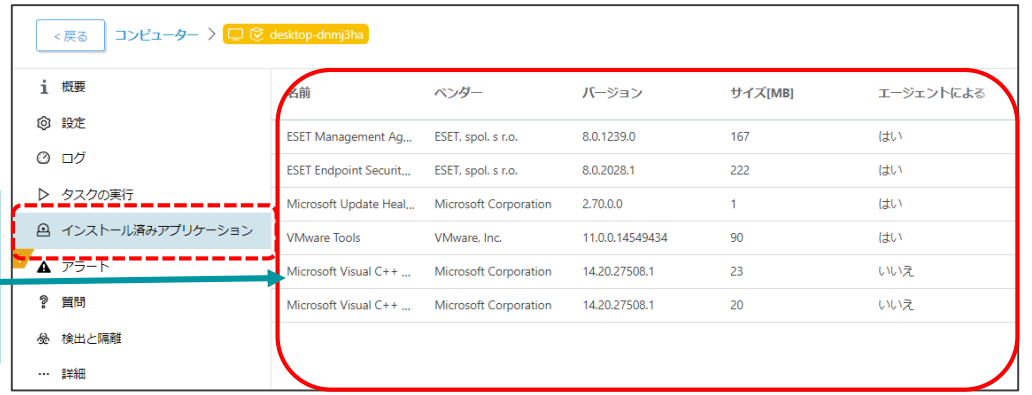
コンピューターの詳細情報では、ウイルス対策製品の情報以外にもデバイスの情報や導入されているアプリケーションの情報、ハードウェア情報の閲覧ができます。

コンピューター - 詳細画面 - 概要



コンピューター - 詳細画面 - 設定

コンピューター - 詳細画面 - インストール済みアプリケーション



【設定】
クライアントの設定を閲覧することができます。適用されているポリシーを確認することができます。

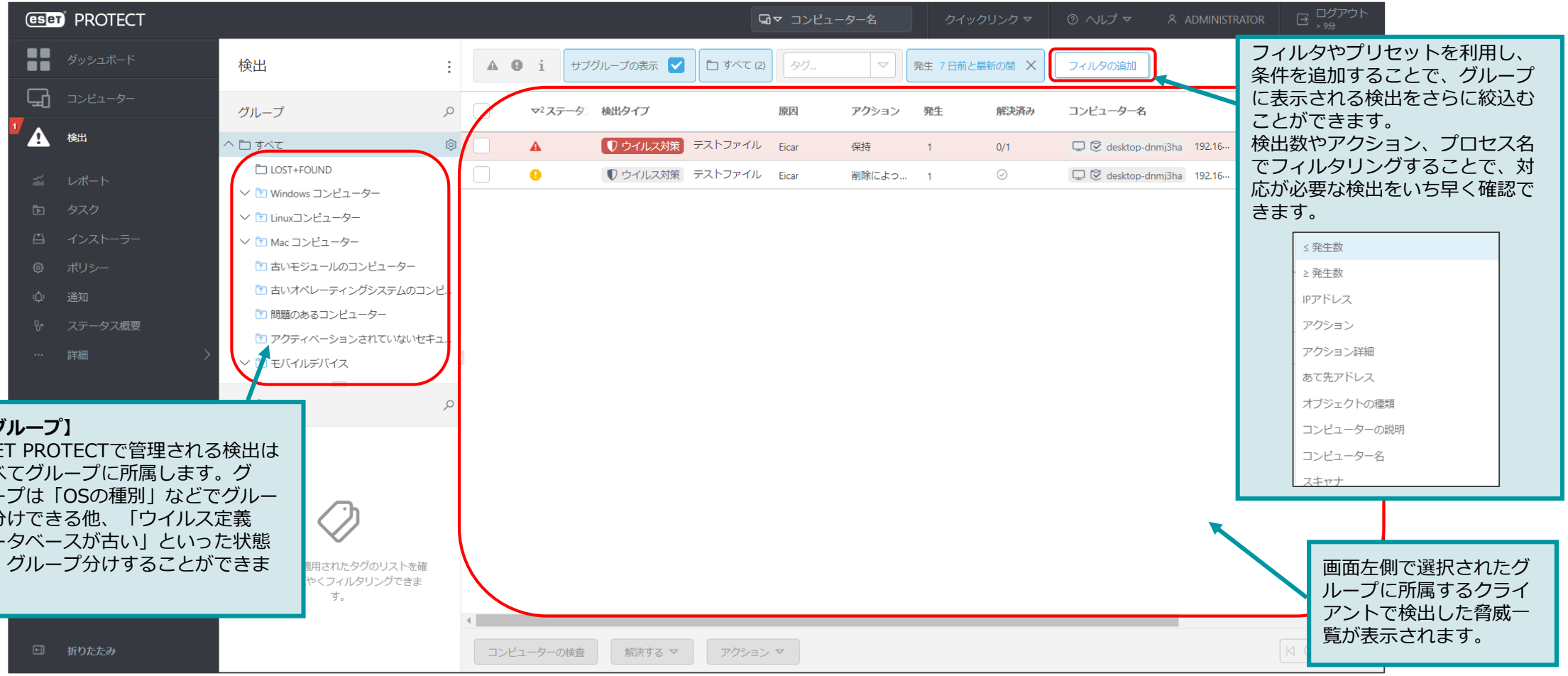
【詳細】-【ハードウェア】
コンピューターの情報やESETの情報について、概要をまとめてます。ハードウェアでは、デバイスのRAM、ストレージ、プロセッサーなどハードウェアの詳細情報を確認できます。

【インストール済みアプリケーション】
一覧を表示させることができます。タスク機能を使用して、アプリケーションのアンインストールができます。

©Canon Marketing Japan Inc.

5. 検出

コンピューターで検出された脅威の概要を確認できます。検出された脅威は、「未解決の脅威」と「解決済みの脅威」に分類され、すべてのウイルスログやファイアウォール、HIPSログの概要が表示されます。



フィルタやプリセットを利用し、条件を追加することで、グループに表示される検出をさらに絞込むことができます。
検出数やアクション、プロセス名でフィルタリングすることで、対応が必要な検出をいち早く確認できます。

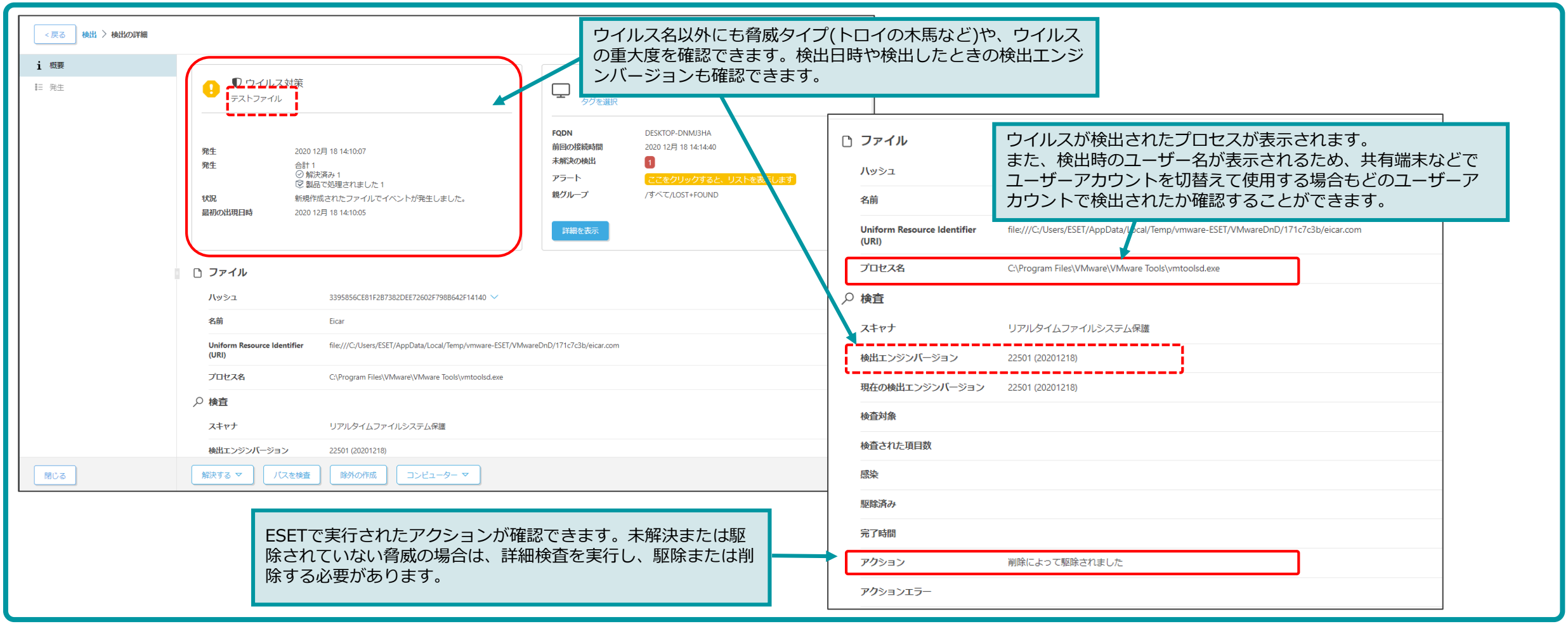
【グループ】
ESET PROTECTで管理される検出はすべてグループに所属します。グループは「OSの種別」などでグループ分けできる他、「ウイルス定義データベースが古い」といった状態で、グループ分けすることができます。

画面左側で選択されたグループに所属するクライアントで検出した脅威一覧が表示されます。

©Canon Marketing Japan Inc.

5. 検出(脅威の詳細)

脅威の詳細では、ウイルス名以外にも、脅威が検出された方法(スキャナ)やプロセス名などを閲覧することができます。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. クライアント管理機能のご紹介

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

6. レポート

クライアントから収集した情報や管理サーバーの情報をもとにレポートを作成することができます。テンプレートとして既に定義されているレポートは約120種類あり、テンプレートをもとに独自にレポートを作成することもできます。

【レポート】
レポートはCSVやPS、PDF形式でブラウザから直接ダウンロードすることが可能です。また、レポートを定期的に自動作成することも可能です。

用途に応じて柔軟に作成することができます。

※「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」および「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」では、レポートの自動作成および電子メールでの送信はできませんが、ブラウザよりダウンロードが可能です。

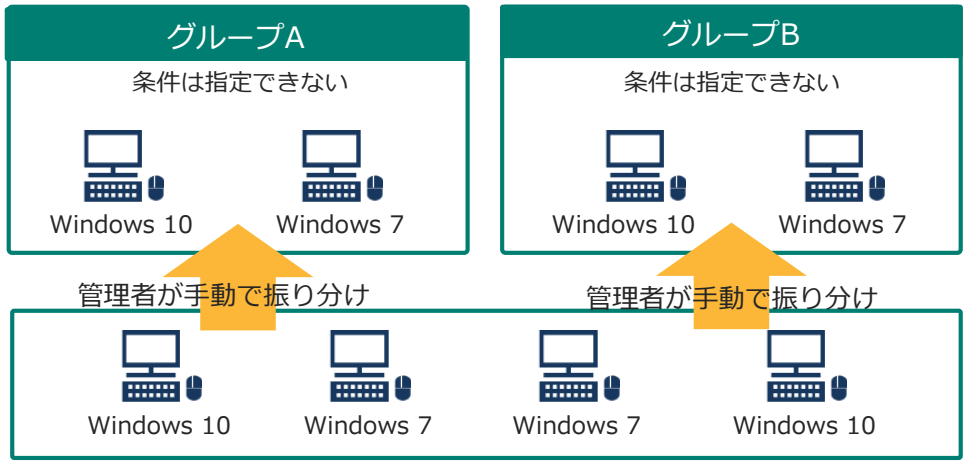
©Canon Marketing Japan Inc.

6. グループ

ESET PROTECTで管理しているクライアントをグループ分けすることができます。「静的グループ」と「動的グループ」の2種類のグループを作成することができます。

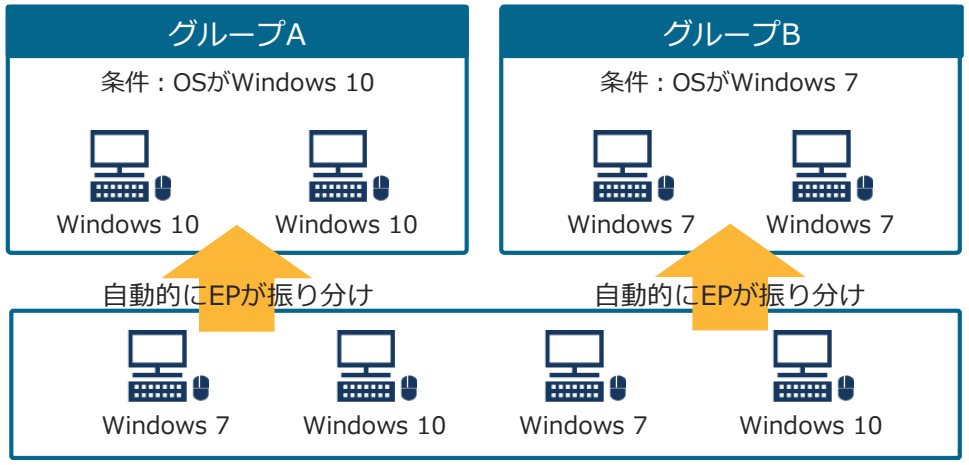
静的グループ

静的グループは、管理者が手動でグループ化をおこないます。
グループに追加したクライアントが自動的に変更されることはありません。



動的グループ

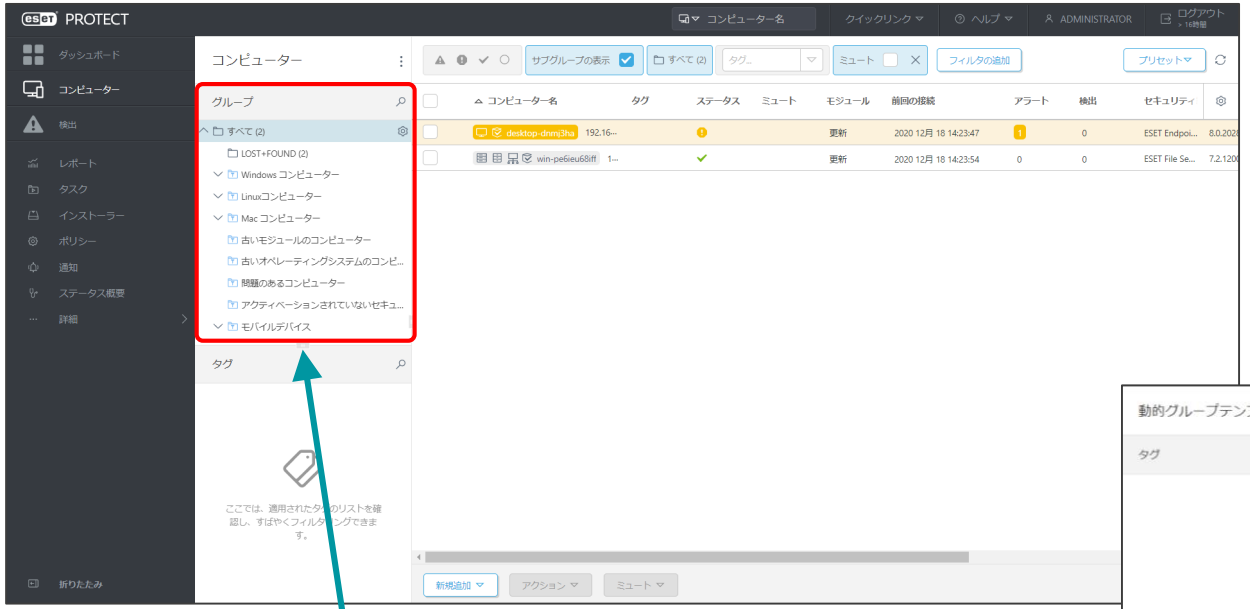
動的グループは、グループに指定した条件を満たすクライアントが自動的に振り分けされます。条件は、OSやIPアドレス、製品バージョンなどを設定することができます。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. グループ

コンピューターより、「動的グループ」と「静的グループ」でグループ分けしたコンピューターの情報確認と、グループの設定ができます。



【グループ】

グループの一覧を確認することができます。
それぞれ下記アイコンで表示されます。

静的グループ、 動的グループ

また、 をクリックすることで新規のグループを作成することができます。

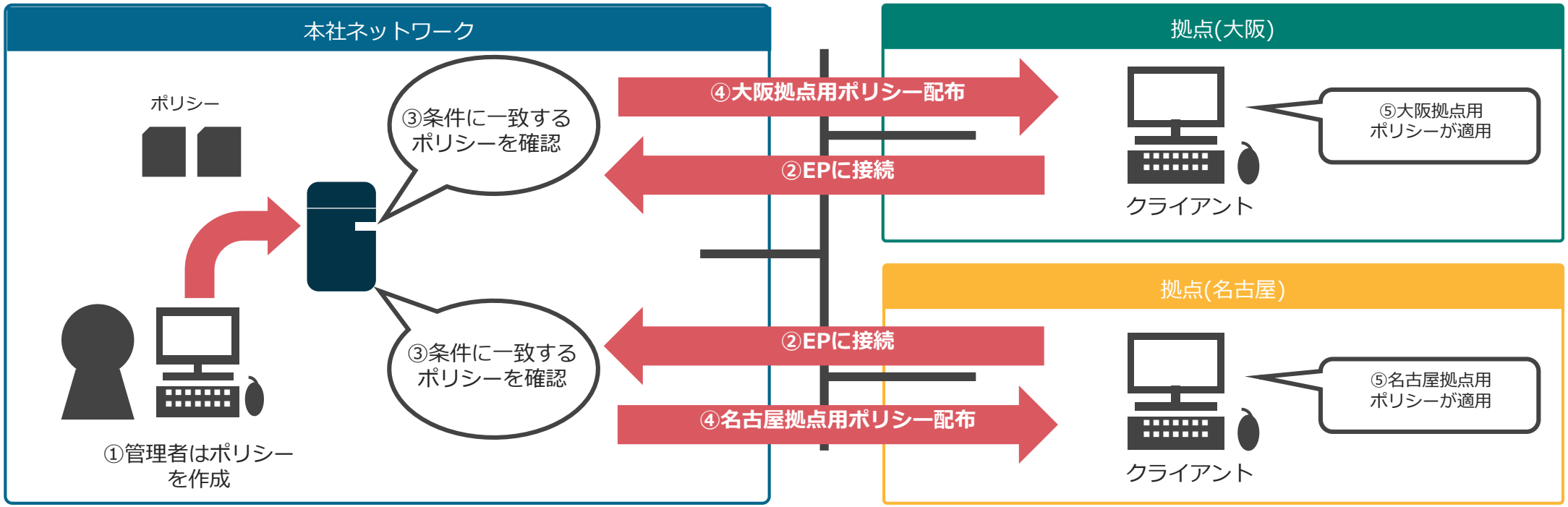
動的グループにはOS別(Windows、Linux、Mac)など
よく使われるグループがテンプレートとして用意されています。
動的グループの条件には下記のような値を指定できます。
端末情報だけでなくESETのバージョンやアラートの状態で条件をつけることもできます。

●主な条件値
・IPアドレス([ネットワークIPアドレス]-[アダプタIPアドレス])
・OS([OSエディション]-[OSタイプ])
・検出エンジンバージョン([機能/保護の問題])
・インストールされたソフトウェア([インストールされたソフトウェア])
など

©Canon Marketing Japan Inc.

6. ポリシー

ポリシーを利用して、クライアントのESET設定変更が可能です。ポリシーは、クライアントがEPに接続した際に適用されます。「グループ」に適用するとあらかじめ設定した条件に従って、任意の設定(ポリシー)を自動で適用することもできます。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. ポリシー

ポリシーにはあらかじめテンプレートが用意されています。テンプレートをもとにして独自にポリシーを作成することができます。設定を行う画面はクライアント側で表示される画面と同じ画面となるため、簡単に設定を行うことができます。

©Canon Marketing Japan Inc.

6. タスク

タスク機能を使用すると、ウイルス検査や、検出エンジンのアップデートをリモートで実行することができます。製品別に分類されており、約40種類のタスクを用意しています。
EPから配布できるタスクは以下の通りです。

主要なタスク

ESETセキュリティ製品

- **ESET製品の設定エクスポート**
  クライアントの設定をエクスポートします。
- **オンデマンド検査**
  クライアントでコンピューターの検査を実行します。
- **ソフトウェアインストール / ソフトウェアアンインストール**
  ESET製品のインストール/アンインストールを実行します。
- **モジュールアップデート**
  クライアントの検出エンジンをアップデートします。
- **製品のアクティベーション**
  クライアントのアクティベーションを実行します。
- **コンピューターをネットワークから隔離する**
  エージェント等の通信以外を遮断しクライアントを隔離します。

ESET PROTECT

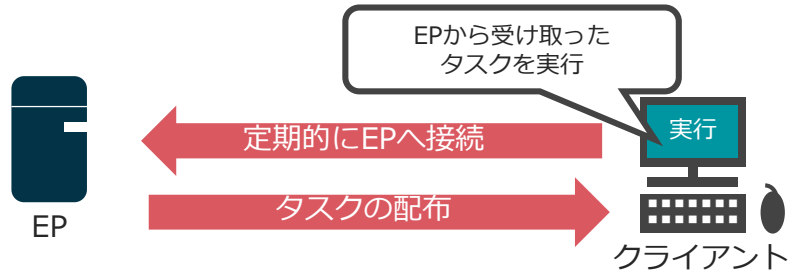
- **ESET PROTECT コンポーネントのアップグレード**
  EPやEMエージェントのアップグレードを実行します。
- **管理の停止**
  クライアントのEM エージェントをアンインストールします。

OS

- **オペレーティングシステムアップデート**
  クライアントのOSのアップデートを実行します。
- **メッセージの表示**
  クライアントの画面上に任意の文字列を表示させます。

モバイル

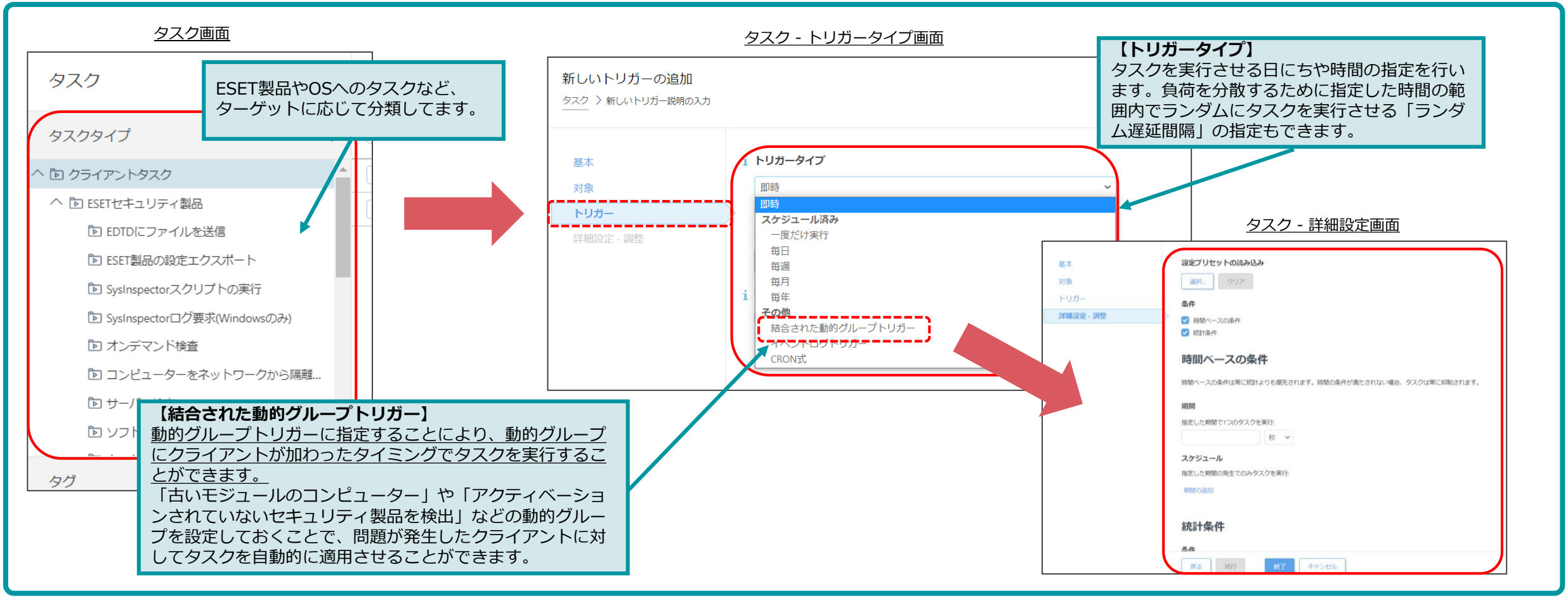
- **アンチセフトアクション**
  AndroidデバイスやiOSバイスの盗難や紛失時に、検索、ロック、警報、ワイプ、拡張初期設定リセットを実行します。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. タスク

タスクでは、実行するターゲットを「コンピューター」単体で指定する以外に、「静的グループ」「動的グループ」を指定することで複数のコンピューターに対して指定できます。タスクを実行するタイミングはトリガーで設定します。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. インストーラー

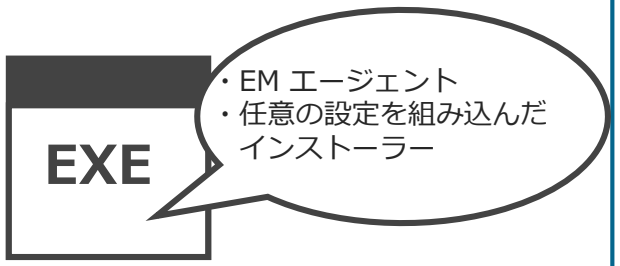
クライアントにEM エージェントとESET製品を展開するためのインストーラーパッケージを作成することができます。インストーラー機能では、以下3種類のインストーラーを作成することができます。

インストーラー

オールインワンインストーラー

EM エージェントとESET製品を含むインストーラーパッケージ、またはEMエージェントのインストーラーパッケージ。(Windows製品のみ)

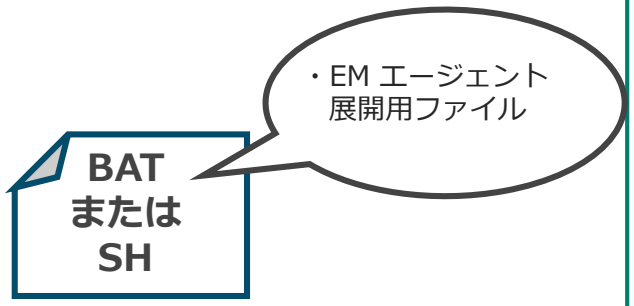
ESET製品の設定を組み込んだり、所属するグループを事前に指定できます。



エージェントライブインストーラー

EM エージェントにEPへ接続するための設定を組み込んだスクリプトファイル。

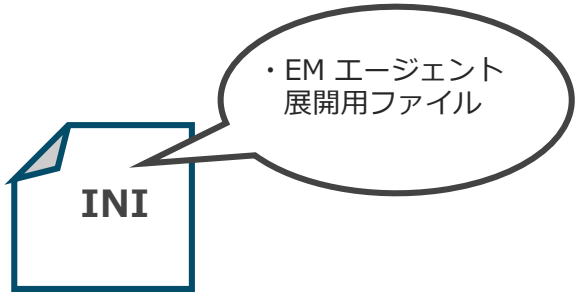
ESET製品のインストールは、別途行う必要があります。



GPOまたはSCCMスクリプト

GPOまたはSCCMを使用したEM エージェント展開用スクリプトファイル。

ESET製品のインストールは、別途行う必要があります。



©Canon Marketing Japan Inc.

6. インストーラー

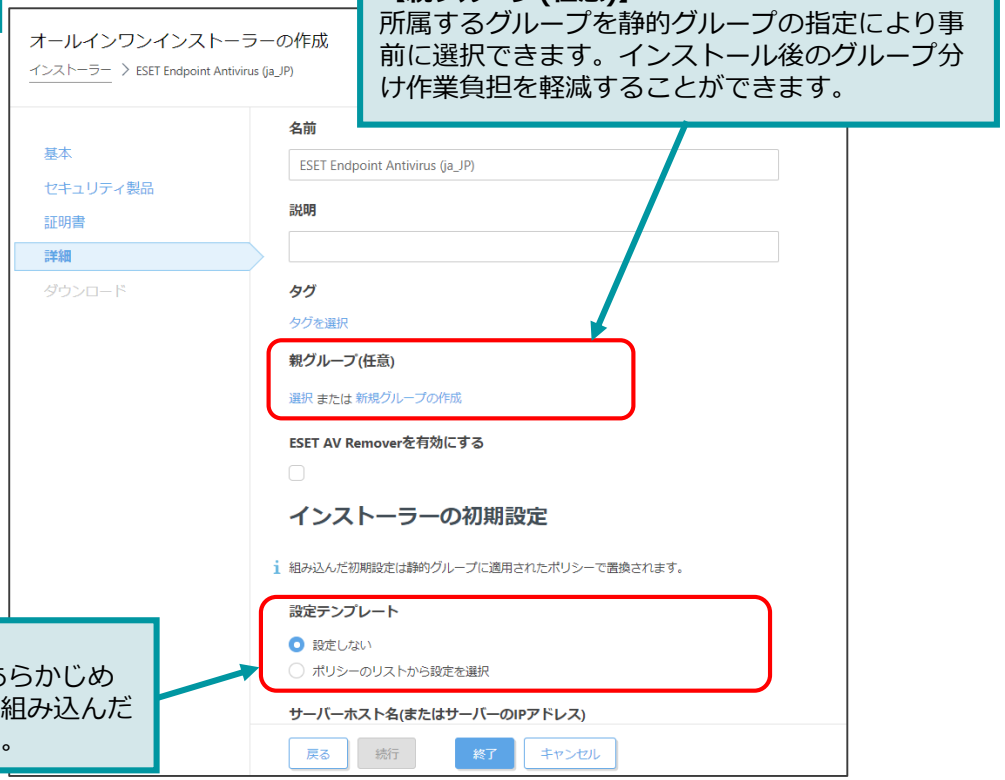
一度作成したインストーラーは、一覧で表示されます。作成時にポリシーをEM エージェントやESET製品に組み込むことができます。また、所属する「静的グループ」を事前に指定することができ、展開時のグループ管理がおこないやすくなっております。

インストーラー画面

作成した各インストーラーが一覧で表示されます。

作成するインストーラーの種類を選択します。

オールインワンインストーラー - 作成画面



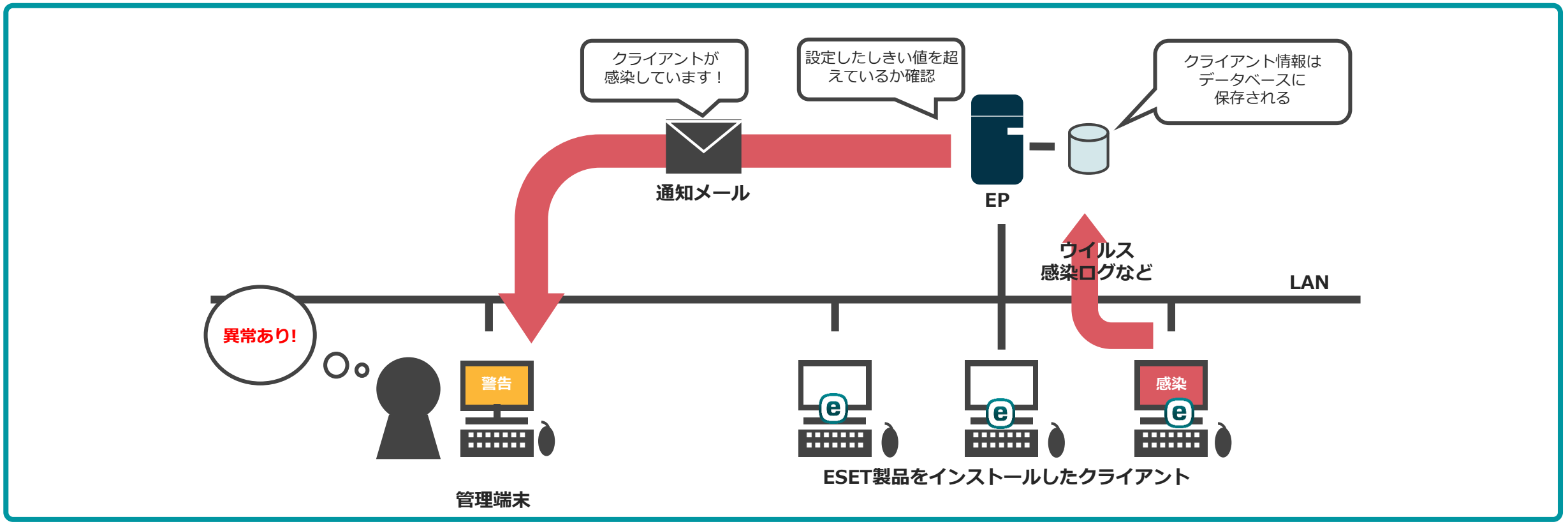
【親グループ(任意)】
所属するグループを静的グループの指定により事前に選択できます。インストール後のグループ分け作業負担を軽減することができます。

【設定テンプレート】
EM エージェントやESET製品に対して、あらかじめ作成したポリシー適用することで、設定を組み込んだインストーラーを作成することが可能です。

©Canon Marketing Japan Inc.

6. 通知

通知メニューで設定したルールのしきい値を超えた場合、 EPから管理者に通知をおこなうことができます。これにより、ウイルスを検出したクライアントが発見された場合やクライアントで問題があった場合、管理者に通知することができます。

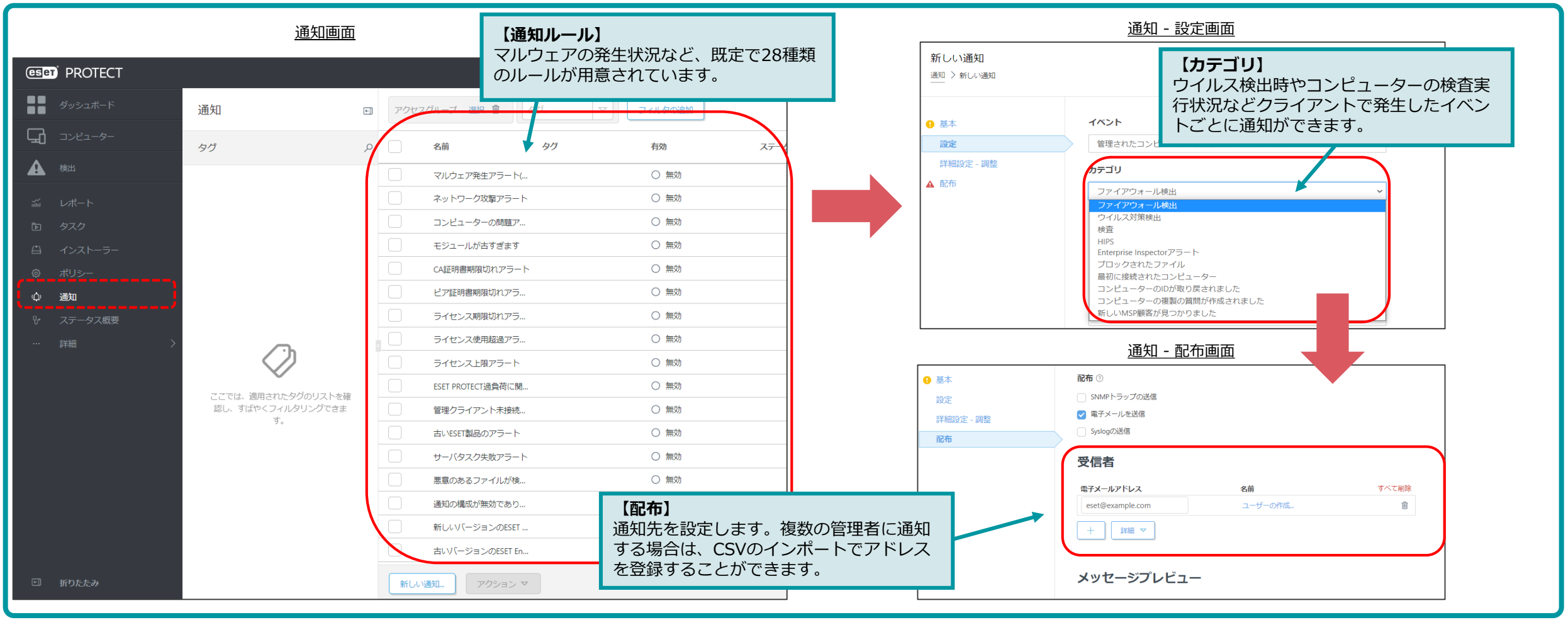


※本機能は、「 ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

©Canon Marketing Japan Inc.

6. 通知

通知はあらかじめテンプレートが用意されています。通知はSNMPトラップ、電子メール、Syslogへの送信でおこないます。



©Canon Marketing Japan Inc.

7. サーバー運用管理機能のご紹介

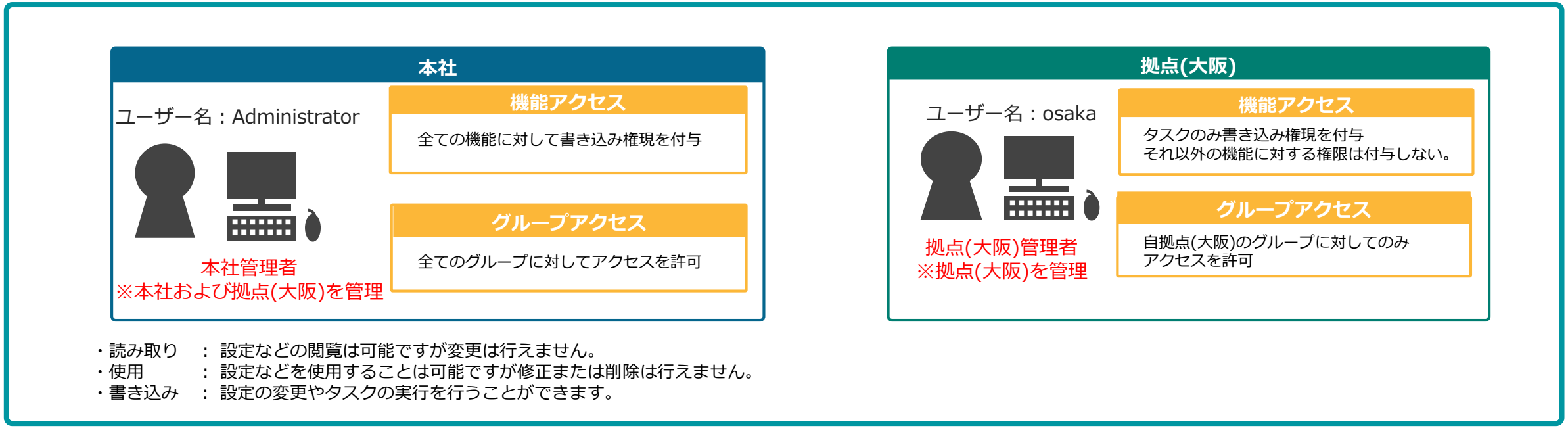
Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

7. ユーザー管理

EPのアクセス権をもつユーザーを複数作成できます。EPではユーザーに対して設定可能なアクセス権が2種類あります。

① 機能アクセス　　：EPの各機能に対して読み取り/使用/書き込みの指定ができます
② グループアクセス：静的グループの指定により対象の指定ができます

２種類のアクセス権を組み合わせることで、特定のグループに所属するクライアントに対して管理を行うといった柔軟なアクセス設定ができます。



・読み取り　：設定などの閲覧は可能ですが変更は行えません。
・使用　　：設定などを使用することは可能ですが修正または削除は行えません。
・書き込み　：設定の変更やタスクの実行を行うことができます。

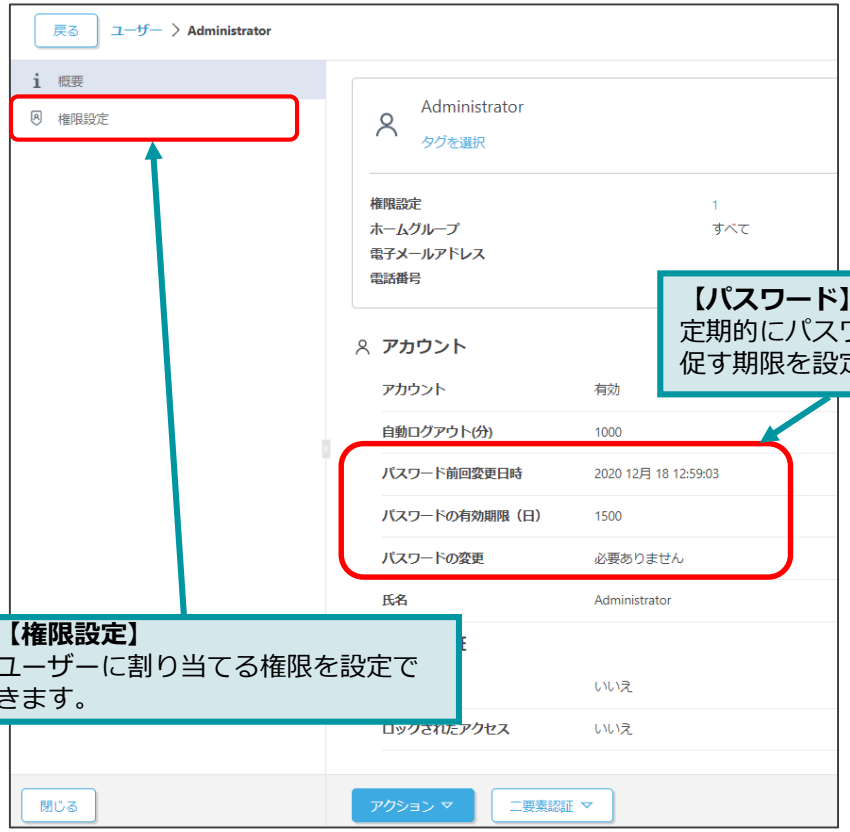
※本機能は、「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」および「 ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

©Canon Marketing Japan Inc.

7. ユーザー管理

各ユーザーには、所属する静的グループと権限設定を割り当てます。アクセス権には既定で全ての機能が実行できる「管理者権限設定」に加えて、設定の表示は行えるが変更は行えない「レビューア権限設定」などがあります。

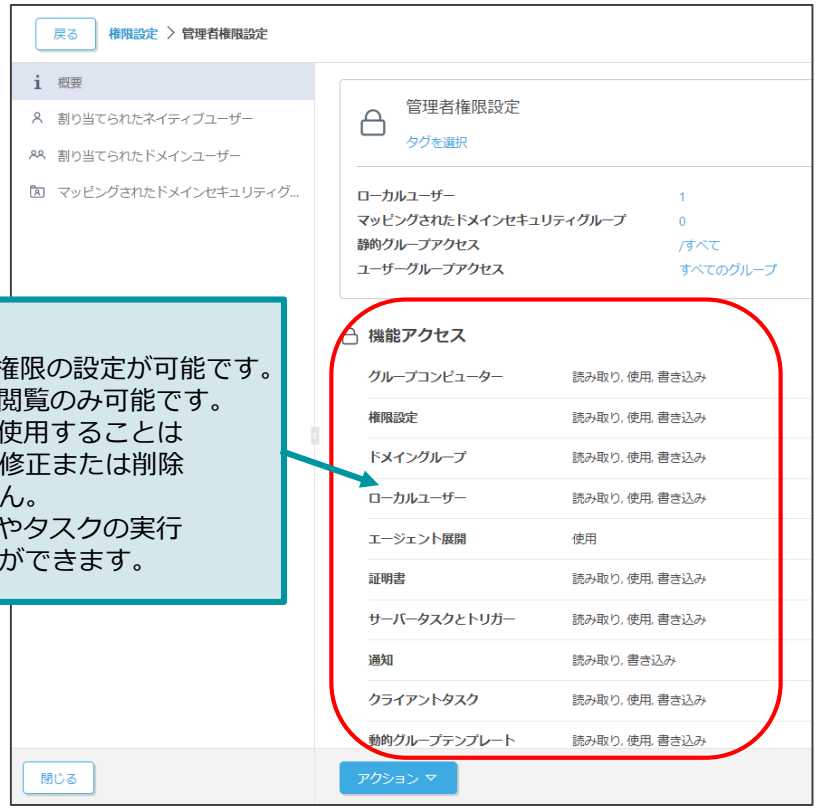
ユーザー画面



【パスワード】
定期的にパスワード変更を促す期限を設定できます。

【権限設定】
ユーザーに割り当てる権限を設定できます。

権限設定画面

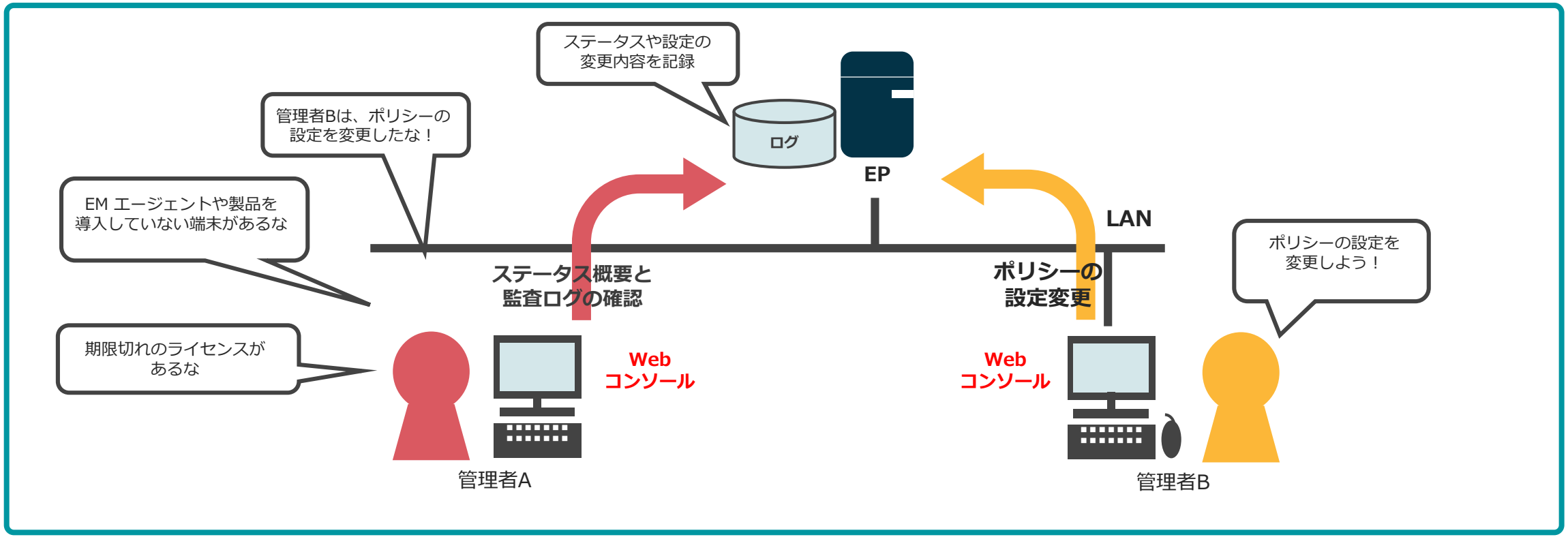


【機能アクセス】
EPの各機能に対して下記の権限の設定が可能です。
・読み取り　：設定などの閲覧のみ可能です。
・使用　　：設定などを使用することは可能ですが修正または削除は行えません。
・書き込み　：設定の変更やタスクの実行を行うことができます。

©Canon Marketing Japan Inc.

7. 監視・監査

「ステータス概要」では、EPの統計的な使用情報やステータスを表示します。
また「監査レポート」を利用すると、ログインユーザーがおこなった操作内容を記録します。
これらにより、EP上の問題をただちに発見でき、管理者は「いつ」「だれが」「なにを」「どのように」設定を変更したか確認することができます。



※本機能は、「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」および「 ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

©Canon Marketing Japan Inc.

7. 監視・監査

ステータス概要では、EPに関する詳細なステータスを確認できます。
各セクションタイルは、項目の状態に応じて色別でステータスを表示します。

ステータス概要画面

©Canon Marketing Japan Inc.

7. 監視・監査

監査ログはレポートまたはダッシュボードより閲覧することができます。
監査ログは、「発生時刻」「アクション」「アクションの詳細」「結果」「ユーザー名」などを確認することができます。

監査ログ画面

©Canon Marketing Japan Inc.

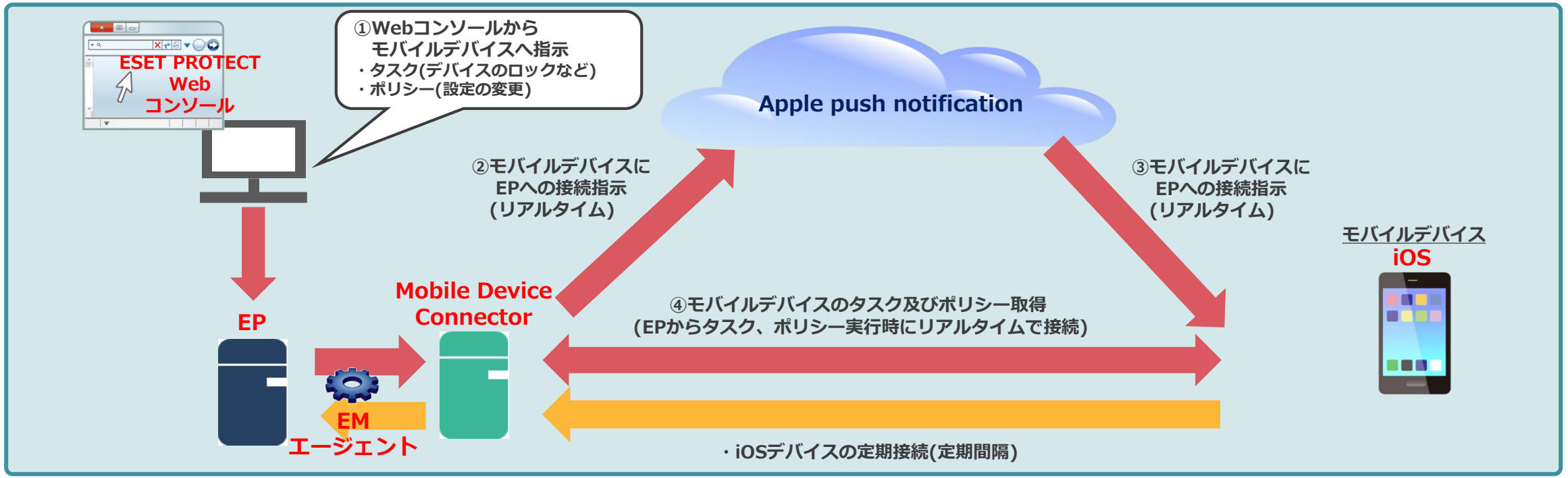
8. モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

8. モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

EPではiOSデバイスを管理することができます。EPにiOSデバイスの登録、iOSデバイスにプロファイルをインストールすることでiOSデバイスを管理することができます。

iOSの管理ではEPからiOSデバイスへタスクを実行することで、iOSデバイス情報の取得、 iOSデバイスを紛失した場合にデバイスのロックなどのアンチセフトを行うことができます。また、ポリシー機能を使用することでEPからiOSデバイスの設定変更やアプリケーションの制御を行うことができます。



※本機能は、「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」および「 ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」ではご使用いただけません。

©Canon Marketing Japan Inc.

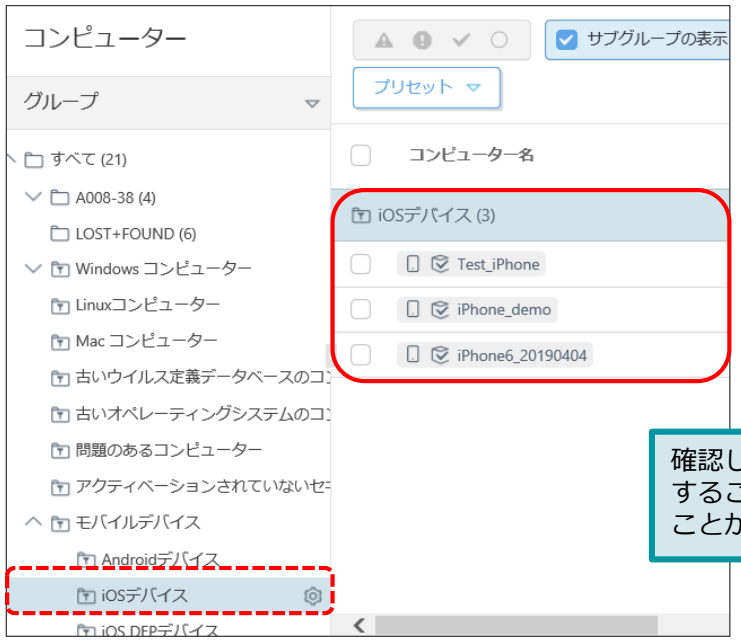
8. モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

EPのコンピューター一覧よりiOSデバイスの一覧および、デバイスの詳細情報を確認することができます。
詳細情報ではiOSデバイスの以下情報が確認できます。

・メーカー　・モデル　・OS情報　・IMEI　・ESETライセンス情報

iOSデバイス情報の閲覧

コンピューター - 一覧画面



確認したいデバイスをクリックすることで詳細情報を閲覧することができます。

コンピューター - 詳細画面

©Canon Marketing Japan Inc.

8. モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

EPからiOSデバイスに以下のタスクを配信することができます。
アンチセフトアクションを使用することで、iOSデバイスを紛失した場合にEPから、iOSデバイスのロックやワイプをさせることができます。

iOSに実行可能なタスク

タスク名	説明
ESET製品の設定のエクスポート	iOSに適用されたポリシーをエクスポートしてEPで表示します。
アンチセフトアクション	iOSでは以下のアクションが行えます。 ・紛失モードをオンにして検索※ ・ロストモードのオフ　※ ・検索※ ・警報/紛失モードのサウンド※ ・ロック ・パスコードをクリア ・初期設定をリセット ※ABM登録モードで管理の場合のみ
製品のアクティベーション	アクティベーションを実行します。
管理の停止	アクティベーションを解除して、iOS端末の管理を停止します。

タスク設定画面(アンチセフトアクション)

©Canon Marketing Japan Inc.

8. モバイルデバイス管理機能(iOSデバイスの管理)

EPからiOSデバイスのポリシーで管理できる項目は以下の通りです。
iOSデバイスに対して設定の変更や、デバイス、アプリケーションの使用を制限することができます。

iOSの管理機能一覧

項目	詳細
パスコード	パスワード文字ルール、変更日数、ロック時間、失敗回数など
デバイス機能	アプリインストール、カメラ使用、FaceTime使用、Siri使用、ロック画面の表示内容、スクリーンショット使用、アプリ内購入など
AIRPRINT	AirPrintの使用の許可、AirPrintの資格情報の保存などのAirPrintに関する制御
ICLOUD	バックアップ、データ同期、写真共有などの使用制限
セキュリティとプライバシー	診断データの送信、証明書、ドキュメント、TouchIDデバイスロックなどの使用制限
アプリケーション	iTunes Store、ゲーム、Safari、メディア再生などの使用制限
アップデート	ソフトウェアアップデートの延期に関する設定など
その他	証明書、AirPrintプリンタ、アクセスポイント、Wi-Fi、VPN、各アカウントなどの設定

ポリシー - 設定画面
(ESET MDM for iOS/iPadOS)

©Canon Marketing Japan Inc.

9. ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

9. ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

セキュリティ管理ツール(※)をクラウド上で提供するオプション製品を以下の２つのラインナップで提供しております。

- **「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」**
- **「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」**

クラウド対応オプション製品では、クラウド上の管理サーバーを使用するので、社内にサーバーを設置することなくクライアント管理を行うことができます。

製品特長

・お客様のサーバー機器購入および定期的なメンテナンスによる手間とコストの削減ができます。
・サーバー機器調達や構築期間を気にすることなく、すぐにESMCをご利用いただけます。
・サーバーの構築作業がなく、簡単にセットアップが完了できます。
・WEBブラウザーでいつでもどこでもクライアント端末を簡単に管理できます。
・ マルチプラットフォーム(Windows/Mac/Linux/Android)対応で、あらゆる機器を一括管理できます。
※ 「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」では、モバイル端末の管理はできません。

<ESET クライアント管理 クラウド対応オプション利用イメージ>

※セキュリティ管理ツールは、ESET PROTECT V8.1でご提供しています。(2022年10月現在)

©Canon Marketing Japan Inc.

9. ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

クラウド対応オプションは、サーバーの使用方法や機能制限に以下の違いがございます。

「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション」

お客さまの専用サーバーで、25ライセンス以上のお客さまがご利用いただけます。

「ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite」

他のお客さまとの共用サーバーで6～249ライセンスのお客さまがご利用いただけます。

	ESETクライアント管理 クラウド対応オプション	ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite
動作サーバー	専用サーバー	共用サーバー
管理可能なクライアント 端末数	25ライセンス～	6～249ライセンス
ログ管理機能	○	○
クライアント管理機能	○	△ (モバイルデバイスを除く)
お客さまごとの データバックアップ	○	× (共用サーバー全体でのバックアップは実施)
メール通知	○	×
レポートのダウンロード	○	○

※機能制限について、詳細は以下のWEBページをご参照ください。
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/4497?site_domain=business

©Canon Marketing Japan Inc.

9. ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

接続環境

クラウドオプションまたはクラウドオプションLiteでクライアント管理するためには、以下の接続環境が必要です。
①クライアントをクラウドオプションのESMCで管理するためには、クライアント用プログラム、および、管理画面利用端末からESMCの以下のポートへ接続できる必要がありますので、ご注意ください。

・2222/TCP：ESET Managementエージェント(EMエージェント)がESMCと通信する際に利用
・443/TCP ：ESMCが管理画面利用端末からのWebコンソールアクセスを受ける際に利用
・80/TCP、443/TCP：検出エンジンのアップデート用サーバーがクライアント用プログラムからのアクセスを受ける際に必要

【HTTPプロキシ経由する場合】

- ✓ HTTPプロキシがESMCで利用するTLS/SSL通信(2222/TCP)を転送できること
- ✓ HTTP CONNECTメソッドをサポートしていること
- ✓ プロキシ認証を必要としないこと(ユーザー名/パスワード設定不可)
- ✓ プロキシサーバーから上記ポートへ通信できること

クラウドオプションでモバイルデバイスを管理するためには、以下の接続環境が必要です。
※クラウドオプションLiteでは、モバイルデバイスの管理を行うことはできません。

【Android OSのモバイルデバイスを管理する場合】

- ✓ 9980/TCP：モバイルデバイスをESMCに登録する際に利用
- ✓ 9981/TCP：モバイルデバイスがESMCと通信する際に利用
- ✓ 5228/TCP、5229/TCP、5230/TCP：モバイルデバイス(Android OS)がFirebase Cloud Messagingへ接続する際に利用

©Canon Marketing Japan Inc.

9. ESETクライアント管理 クラウド対応オプション

禁止事項

クラウドオプション、もしくはクラウドオプションLiteをご利用いただく場合、以下の事項を禁止しております。
①EMエージェントの接続間隔を20分未満へ変更
②一日に合計30MB以上のレポートファイルをダウンロード
③一日に合計1,000通以上を通知させる送信設定(クラウドオプションのみ)
④存在しない電子メールアドレスや不要な電子メールアドレスの設定(クラウドオプションのみ)
⑤モバイルデバイスを管理するために表示されるESMCへの操作(クラウドオプションのみ)

クラウドオプションの場合、ESMCの管理画面のコンピューター一覧に、管理対象の端末としてサーバー自体が表示されています。
ESMCサーバーに対する下記の操作は、クラウドオプションの運用管理に支障をきたしますので行わないでください。

1．コンピューターのシャットダウンタスクによるESMCサーバーのシャットダウンおよび再起動
2．オペレーティングシステムのアップグレードタスクによるESMCサーバーのOSのパッチ等のアップデート
3．管理の停止タスクやアンインストールタスクによるESMCサーバー自身のEMエージェントのアンインストール
4．ESMCコンポーネントアップグレードによるESMCサーバー自体のアップグレード
5．コマンドの実行タスクによるESMCサーバー自身に対する任意のコマンド実行
6．初期設定されているESMCサーバーのポリシーの変更及び削除
7．ESMCサーバーの削除
8．ESMCサーバーが所属する静的グループの変更

©Canon Marketing Japan Inc.